

梅 檀

朝のあいさつ運動

朝、児童の皆さんが登校して「おはようございます」の元気なあいさつが飛び込んできます。そのたびに、うれしい気持ちになります。



その中で、一年生には、お父さん・お母さん・おじい・おばあに手を引かれて登校する子どもたちがいます。最初は校門で別れるのがさみしそうだった子どもたちが、日が経つにつれ、握っていた手を自分から離し、足取りもしっかりと教室に向かいます。子どもたちの成長はすごいですね。



その少しの間、子どもの後ろ姿をじっと見つめる保護者の方々。そして、私に「お願いします」と言っ去って行きます。深い愛情につつまれ、子どもたちは自分の道を歩いていくのです。なんと素敵な光景でしょう。これからお子さんが大きくなり、自立しても、その後ろ姿に思いを込め、

見守っていかれることだと思います。子を思う親の思い……あらためて、その大きさに心を動かされました。その思いを、私もしっかりと子どもたちに伝えていきたいと思っています。



一年生のアサガオ



一・二年生の皆さんは一人一人、アサガオを育てています。先日、土に植えたばかりの種が、もう芽を出し始めました。一年担任の先生が朝の会で花壇に出て、その成長を確認させていました。



「うおー」「すげー」「ねえ、芽がでてるよ。」「くさんのはまだだね」「子どもたちから歓喜の聲が飛び交います。土を払いのけて芽を出した小さな命の誕生を、全身で喜び子どもたち。その純粹さにこちらがはっとさせられます。この子たちから学ぶことはたくさんあります。



こちらは2年生がキュウリを育てています



小さいことだが心が温まる大きな話

ある日の放課後、作業を終え校長室にいと、高学年の女の子が、「校長先生ー十円落ちていた。」と私のところに持ってきました。(お金が学校に落ちていたと、子どもたちはよく私のところに持ってきます。)「募金してね」と言っ、渡してくれたので、「募金しますね」と言っ受け取りました。その帰り際、私の作業靴が乱れていたのを見て、何気なく靴をきれいにそろえてくれました。なんときれいな心の持ち主でしょう。人の靴をそろえてあげることが簡単なようで、簡単にできることではありません。その優しさ・心遣いに心が温かくなりました。

学級保護者会のご参加ありがとうございました

四月二十日に学級保護者会が行われました。初めて学級担任と顔合わせをする中で、学級の様子・これからの生活についてなどの話がありました。コロナ渦の中で授業参観は実施できませんでしたが、たくさんの方の保護者の方がいらしてくれました。



4年生



6年生

